

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月18日（木）に全国の第6学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果の概要をお知らせいたします。本校では、国語科・算数科、ともに全道・全国平均を下回りました。

国語科において、「読むこと」は全道・全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」は全道を上回り、全国平均と同等、「書くこと」は全道・全国平均を下回りました。

算数科において、「データの活用」は全道を上回りましたが、全国平均は下回り、「数と計算」「図形」「変化と関係」は全道・全国平均を下回りました。

特に、国語科では、「言葉の特徴や使い方」に課題が見られました。現在、国語専科を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを進めていますが、学習活動の基礎となる文字の習得を軸に、さらなる授業改善に努めていきます。

また、算数科では、学習の理解度に課題が見られました。担任による日々の授業づくりだけでなく、担任と教務主任が連携した習熟度別少人数学習を計画的・意図的に進め、さらなる授業改善に努めていきます。

児童質問紙では、「人の役に立つ人間になりたい」、「国語の授業の内容がよくわかる」、「算数の勉強が大切だ」と肯定的に答える児童が全道・全国平均を上回りました。

一方で、昨年に引き続き、「ゲームやSNS、動画視聴の時間」が長く、「家庭での学習時間」や「読書の時間」が短い傾向がみられ、課題となっております。昨年度から導入したデジタルドリル「スマイルネクスト」の積極的活用や、宿題や家庭学習の見直し等も含め、家庭と連携し、子どもたちの学習習慣確立に向けた取組を進めていきます。

